

精な心が起ります。あの子供さんの。

「先生、あつて。」

私を見上げられた犯し難い目なざしを思ひ出して、戒めを致して居ります。

かうして書いて居ります。なつかしい思ひ出は限りもなく湧いて参りますが、紙數に限りがございますので、これです。拙い筆を擱くことに致します。

昭和七、一二、二二、雪の筑波を仰ぎつゝ、

下館の寓居にて

坂 内 ん ツ

お茶の水の幼稚園、これは一生私の頭にこびりついてこれないものであります。此度は完備した園舎が竣工して窪町に移られても私は尙お茶の水と呼ばずには居られません、其なつかしい幼稚園、私に一生の仕事を授けて下さった幼稚園に奉職したのは二十二年前の事であります。星變り時移り時勢の推移につれて保育の形式、幼稚園の空氣といふものも知らず知らずの内に變つて來たやうに思はれますが私はたゞ單に形にあらはれた二三の事について思ひ出したまゝに書いて見ませう。

幼児の服装は大正のはじめ迄は洋服を着て通園される方は數へる程でみんなが異様の目を向けた位でした。殊に入園檢定の時は體格検査があるといふので全部和服、三つの御祝に著せられ袖の長いゴロリミした風でしよふゝミ來られたものであります。男兒の中にはノシメの羽織袴に白足袋といふいでたちが少なかつたのであります。大正も十年頃になります。大方洋服になり時々和服のお子さんを見る。赤いかのこの兵古帯も可愛いものねささゝやき合つたものです。

奉職の當時箆筒(名ばかりの)の中を調べ、どんな着物が用意してあるか見ました時に目にうつつたものは、筒袖にした双子の細かい縞の袷綿入、長袖の淺黄形つきの單衣、白形つきの筒袖の單衣、蟲のくつた黒つほい細かい縞の本チルの單衣が筒袖ミ半長袖の二枚、紫メリンスの兵古帯ミだけでした。しかも皆ずいぶん時代のついたものばかりでした。田舎育ちの私も實は其實素なのに驚きました。その頃でもこれを着せてお歸するのはごうも出来ないやうな氣がし出しましたので或時なご電話をかけてお迎の時に着物を持つて來て貰ひ度いごいつた處、察せられたミ見え電話をかけ終つて小學校から歸るミすぐ、スキリした一揃を抱いた女中さんが自動車で駆けつけ玄關に横つけにされたのには驚きました。其頃自動車ミいふものはめつたに乘られぬもので整澤屋の乗り物ミ思はれて居た時代ですから玄關に横つけにされるなごは驚異の目で見られたものです。其後あまりひざいごいふので安井主事をはじめ雨森先生、池田先生其他職員會議で協議をしてつくられたものは何かミいふに驚く勿れ、バカく木綿ではないが一寸手のよい染緋の筒袖袷綿入、白地の染緋の單衣でした。これに紫メリンスの兵古帯をしめさせられた人が今は大學を卒業しようとして居る人達です。今から思ふミ不思議なやうですが誰もあやしまないのは時勢の然らしむる所でせう。それが大震災の時すつかり焼けてしまひましたので、其後は上衣、下着、靴下等全部洋服の着換を用意しました。

序に先生の服装も書いて見ませう、この時代に變つたミいふのは羽織が柄物になつた事です。それ迄は職員 of 服装規定にある通り羽織を用ふる場合は無地たるべしミいふのを守り女の先生は申し合せたやうに無地の袖の紋附を着て居たものです。奉職當時袖の紋附が間に合はずたミ一枚の紋羽二重の羽織を毎日着て居てはお式の時に困るミ思ひ無地の出来る迄小紋の羽織を着て出勤して居ました。一寸用事があつて寄宿舎に行き生徒監室に入りました處、或先生が用事も聞えぬミいふ風に眼鏡越しにジロノ御覽になるのは、反則ではないか、無地の羽織は持たぬのかミおつしやるやうに思はれて恥かしくて堪らず早々にしてかへりましたが、袖の無地が出来てからは一日も外の羽織は着ませんでした。處が幼稚園は一日

中動いて居るので殆んご襷がけです。きの先生を見ても脊紋の上に襷十字にあやぎつて働いて居らるゝのはあまり見て感じのよいものではありません。働くなら働くやうに徹底的に服装も換へた方がよいと相談がはじまりました。今ならすぐ洋装を來るのでせうが其頃はそこ迄は行かすせめて幼稚園だけは縞の羽織を許していたゞき度いご安井主事から校長に願つていたゞいて無地以外のものでも宜しいと云ふ御許ができました。幼稚園で着はじめるご小學校其他の若い先生にも無地を召さぬ方があるやうになり今日に至つたものであります。

お茶の水といへば思ひ出が多いのですが其内でも忘れられないのはあの遊戯室の奥の玩具室であります。實にカビ臭い古色蒼然たる部屋でした、日當りの悪いせいでもありませんが感じのよくない一室でした。が私は時々こゝに入り込んで色々古い恩物や玩具を引き出して見て居るのが好きでした、幼稚園といふものが輸入された當時あちらの恩物を其のまま用ひたご思はれる恩物、成績品が澤山ありました。お茶の水以外では見られぬ室でした、わざわざ遠方から研究に來られてこの一室で勉強された方もありました。教育は時代に適應させて行かねばなりません、土地の状況によつても異らねばなりません。が何事も原理を知るご同時に其變遷即ち歴史を知らねばなりません。固き土臺の上に建つ建築でなければ覆り易いやうに、歴史を究めず今日だけを膨脹させるのは土臺が危い氣がいたします。其歴史を知るには幾冊の保育史を讀むよりも幾時間の講義を聞くよりも百聞一見に如かず、この一室で心して見て居れば大方の事がわかり教へられる處が多かつたご思ひます。捕はれてはいけませんでせうがせめて見せて上げたいご御若い方々のために惜しくて堪りません。震災後すぐ焼け跡を見舞つて第一に此一室の跡に歩を運びました。あれはこれはご探して見れご何一つ見出されません。暫し茫然と立つて居りましたが漸く瀬戸のお雛様一對を掘り出し大事に抱いて歸りましたが、今もあの部屋を頭に描いてよき参考にいたして居ります。